

68,376人

平成17年

56,361人

福津市の人口

令和4年度決算を可決

暮らしの「いま」を知る

決算審査特別委員会

市の人口は近年、急増しています。合併後の18年間に約1万2,000人、21.3%も増えているのです。しかし人口が増える地域がある一方で、人口が減少している地域もあります。人口構成も大きく変わりつつある中、私たちの暮らしはどのように変わってきているのでしょうか。今回は郷づくり推進協議会の会長に集まっていたいただき、ご協力いただきました。

(※郷づくりとは、地域住民主体の地域づくり活動のことです。)

郷づくり事業で取り組んで良かったと思う活動は？

1位	地域の清掃などの環境美化活動
2位	子どもの見守りや地域パトロールなどの防犯活動
3位	災害予防や災害対策などの防災活動
4位	高齢者の見守りや声かけ、交流会など的高齢者福祉活動
5位	祭りや伝統行事などのイベント交流活動

(令和4年2月実施の郷づくり事業に関するアンケートから調査対象:各郷づくり推進協議会役員)

合併時と比較 あなたの地域の人口は？

郷づくり地域		0-14歳	15-64歳	65歳以上	計
福間	令和5年	3,201	10,396	4,258	17,855
	平成17年	2,131	9,702	2,717	14,550
	差	1,070	694	1,541	3,305
福間南	令和5年	3,499	9,020	3,513	16,032
	平成17年	1,017	6,122	1,757	8,896
	差	2,482	2,898	1,756	7,136
上西郷	令和5年	305	1,361	1,009	2,675
	平成17年	350	2,055	748	3,153
	差	-45	-694	261	-478
神興	令和5年	623	3,147	2,777	6,547
	平成17年	1,160	5,879	1,570	8,609
	差	-537	-2,732	1,207	-2,062
神興東	令和5年	1,016	4,115	2,487	7,618
	平成17年	899	4,567	1,348	6,814
	差	117	-452	1,139	804
勝浦	令和5年	94	497	466	1,057
	平成17年	110	760	445	1,315
	差	-16	-263	21	-258
津屋崎	令和5年	1,395	4,780	2,262	8,437
	平成17年	959	4,514	1,619	7,092
	差	436	266	643	1,345
宮司	令和5年	1,423	4,581	2,151	8,155
	平成17年	680	3,858	1,394	5,932
	差	743	723	757	2,223

(単位:人、各年の人数は3月末現在)

監査委員の意見

健全な財政ではあるが
今後への新たな財源の確保を

令和4年度の一般会計は、新型コロナウイルス関連事業である子育て世帯臨時特別交付金事業費等の皆減によって、歳入・歳出とも減額となり300億円を下回り、国の施策に大きく左右される結果となりました。歳入については、市税の増収やふるさと納税受入額の伸び等によって、自主財源比率は上昇しています。これは行政活動の自主性と安定性の確保において重要です。歳出については、扶助費に係る経常的経費は年々増加している、今後も高齢化や保育需要の高まり、新型コロナウイルス等の臨時的に発生する行政需要への対応も想定した財政運営が求められます。財政健全化判断比率で健全性は確保されているものの、財政構造の弾力性を示す経常収支比率は高水準で推移している、財政力指数は前年を下回っています。今後は、優先

市税や使用料等の 収入未済額が増加傾向



榎本 博
監査委員

市税、使用料等の収入未済額が増加傾向にある。全庁的な協力体制を整え、債権回収に努力を。

多様化、複雑化した行政需要にこたえるよう、ハード面の整備だけでなく、行政サービスの質の向上等ソフト面の整備の充実も欠かせません。(監査委員審査意見書抜粋) 議会選出監査委員に聞く



瀬谷 和徳
代表監査委員

すべき事業の重点化や新たな財源の確保に努めることが重要であると考えます。



郷づくりの声



郷づくり推進協議会の会長に、活動をする中で感じる福津市の現状や、「こんなまちになってほしい、こんなお金の使い方をしてほしい」などの希望を聞きました。

風通しのよい行政運営を

市職員間で意見を出し合える環境なのか疑問がある。若い人の意見を取り入れ、もっと想像力を働かせてほしい。



神興地域郷づくり 富松 亨一 会長

福津在住が誇りとなるまちへ

郷づくりの民意が市へ届く風通しのよい連携を構築し、福津に住んでいることを誇れる住みよいまちにしたい。



勝浦地域郷づくり 天野 保章 会長



令和4年度の新設校に関する事業費は合計3902万円で、基本計画策定や土地鑑定、学校用地の測量設計の委託業務などを行いました。



▲宮司地区の通学風景
▲宮司地区の新設校建設予定地

令和4年度一般会計決算は、歳入が297億8753万円（前年度304億3679万円）、歳出が287億3594万円（前年度295億8386万円）となり、前年度と比較すると、歳入で6億4926万円、2・1%の減、歳出では8億4792万円、2・9%の減となっています。

県内他市町村と比較 市の財政状況は…

財政状況は県内他市町村と比べても良好。市税の増収、ふるさと納税の伸びにより、自主財源比率は上昇しています。しかし、扶助費は年々増加し、市民一人当たりの基金は減少しています。事業の重点化や新たな財源確保が不可欠です。

令和5年9月末現在の速報値

項目	数値	県内29市中(県内60市町村中)
財政力指数(財政力)	0.57	15位(24位)
経常収支比率(弾力性)	89.2%	8位(21位)
実質公債費率(借金割合)	5.7%	10位(20位)

合併時と比較 市民一人当たりでみると…

市の事業費(決算額)		総額
平成17年度	35.9万円	202億2800万円
令和4年度	42.0万円	287億3500万円
市の借金(地方債残高)		総額
平成17年度	26.8万円	151億700万円
令和4年度	26.3万円	180億500万円
市の貯金(基金残高)		総額
平成17年度	20.4万円	114億7800万円
令和4年度	15.2万円	103億7500万円

議会の視点



健全な財政運営ができていたのか。決算審査特別委員会では、各委員の視点からそれぞれの事業や市政運営について、質疑を行う中で厳しくチェックしました。

観光協会とDMOの関係性と方向性は



秦 浩 委員

両者の関係の在り方と、今後の市がめざす方向性は。市も含めた三者の調整と連携が図れる観光行政をめざす。



岩下 豊 委員

生活保護費の予算額と決算額の乖離の原因は

生活保護費の支給を必要以上に減らしたのではないかと。支給は基準通りに実施。見込みより実績が少なかったため。



石田 まなみ 委員

物価高騰対策こども若者応援業務委託料の執行状況は

ギフトカード配布後、利用率の追跡調査結果は。8月末時点で約7割の執行率だが、さらに利用を促進する。

市民税(個人)滞納分の収納率が減少しているが



戸田 進一 委員

市民税滞納分の収納率30%は、令和2年の36%から大幅減少だが、今後どうするのか。しっかり対応する。



米山 信 委員

狭あい道路整備促進事業繰越しの理由は何か

事業繰越しの理由は。分筆が必要な土地の地図に国土調査の不具合があり、法務局と協議中のため。

防災意識の改善を

実際に被災した経験から、指定避難所の前に一次集合場所が必要と考える。市はリアルな防災体制を整備すべき。



上西郷地域郷づくり
高木 文明 会長

住みたいまちづくりを

自治会の担い手不足と自治会に入っていない住民への対応など、市との役割分担が課題。協力強化で住みたいまちへ。



津屋崎地域郷づくり
楠田 元明 会長

住民の民意を反映してほしい

新設校や郷づくりなど住民の民意をくみ取ってほしい。その上で、住民と市との連携強化を再検討してもらいたい。



宮司地区郷づくり
坂根 康廣 会長

保育所等における事業効率化 推進事業

405万円



▲登園時の出欠確認の様子 (ICT導入)

小中学校トイレ洋式化事業

2億1616万円



▲福岡東中学校の多目的トイレ

古墳公園史跡等購入事業

10億7291万円



▲解体されたカントリーエレベーター

共働のふるさとづくり寄附金 促進事業

3億6367万円



▲ふるさと納税返礼品の例

福津市資金運用方針の 策定の理由は



豆田 優子 委員

問 昨年9月に方針を立てた目的は。
答 安全かつ計画的に資金を確保するため、運用会議を含め方針として位置付けた。

問 14件の成約の中で、就労継続支援への移行もあるか。
答 14件中1件が就労継続支援B型へ成約した。



大山 隆之 委員

就労支援職業カウンセリング 事業の成約状況は

高収益型園芸産地育成事業の 補助金は十分なのか



倉元 敏徳 委員

問 育成事業として補助金は十分か。
答 希望者に意見を聴取し、支援内容を決定している。十分な支援ができています。

学校の地域コーディネーター への予算は適切か



中村 恵輔 委員

問 人員増以上に活動回数が大きく増えているが、業務量と対応は適切か。
答 適切な活動時間数と報償費を検討する。

問 実質収支比率が増加した理由は。
答 新型コロナウイルス関連の国庫補助金が歳出実績より多く歳入されたことによるもの。



井手口 忠信 委員

実質収支比率が増加している 要因は何か

ふるさと納税の額を 今後も増やしていく工夫は



福井 崇郎 委員

問 ふるさと納税の寄附額を増やす方法は。
答 寄附件数は約3万6千件で増加傾向。今後は高付加価値の商品も出したい。



神興東地域郷づくり
奥 弘子 会長

住み続けたいと思う福津市へ
全ての世代が心地よい居場所づくりをめざしているが、郷づくりの世代交代が課題。市としても対策してほしい。



福間地域郷づくり
岡田 和憲 会長

向こう三軒両隣りの精神で
市民・郷づくり・行政が一体となる事が重要。支え合い、助け合い、協力し合って「住みよいまち」になってほしい。



福間南地域郷づくり
石原 政道 会長

未来のため教育環境の改善を
過大規模校は地域でも重要な課題。多様な学びの機会を作り、地域で未来に誇れる子が育つまちにしてほしい。



▲健康レクサポーターによる介護予防体操講座



▲上西郷にある福間浄化センター

国民健康保険事業特別会計

決算は、歳入65億8460万円、歳出64億5754万円で、差引額1億2706万円の黒字となりました。

後期高齢者医療事業特別会計

決算は、歳入11億7426万円に対し、歳出11億6317万円で、差引額が1108万円の黒字となりました。

介護保険事業特別会計

決算は、歳入52億7827万円、歳出51億678万円で、差引額1億7148万円の黒

字となりました。

公共下水道事業会計

公共下水道事業の業務状況は、令和4年度末の普及率が99・6%で前年度より0・2ポイント上昇しました。処理区域内人口は6万8092人で前年度に比べ416人増加しています。

経営指標の観点からみると、経常収益21億8662万円に対して、経常費用18億8060万円で、経常収支比率は116・3%となっています。
※金額は千円以下切り捨てで表記



佐伯 美保 委員

新設校基本計画策定業務の検討過程は

国学識経験者や学校関係者、地域住民含む検討委員会の設置やパブコメの実施は、**答**設置も実施もしていない。

地域商社「福津いいざい」事業の不用額はなぜか



尾島 武弘 委員

問 予算の約半分が執行されなかった理由は。
答 地域おこし協力隊職員が任期期間途中で退職したため。



山本 祐平 委員

RPA事業有料ソフトの活用状況は

問 有料ソフトの使用感の悪さは解消済か。
答 操作性が悪いため回避策を模索中。効率化には他のツールも活用している。

市議会議員改選後初の決算審査特別委員会、慎重に審査



中村 清隆 委員長

委員長はこう考えた!
初の決算審査に挑む議員もいる中、多くの質疑が飛び交った。予算執行と事業の適正化について慎重に審査した。

民生委員の欠員状況と改善の検討案は



高山 賢二 委員

問 欠員による支障状況と今後の改善は。
答 欠員は2人。支障は把握していないが、引き続き自治会等に選出依頼していく。



中村 晶代 委員

防犯灯LED化支援事業の成果はどうなっているのか

問 この事業を実施した自治会の数は。
答 102自治会のうち、この5年間で進行中も合わせて69自治会で実施した。